

中身から学ぶキリスト教

第1回 教会って何か

- 教会論 -

(1) 教会って何か 問題

1 宗教について学ぶ際のポイント

信仰・思想と組織・儀礼

2 教会について知るには、どうするか。

ともかくも教会生活を一年程度送ってみること

(2) 基本的な答え 教会論

3 信仰告白における教会・聖書における教会

・使徒信条

「わたしは聖霊を信じます。きよい公同の教会、聖徒の交わり」

・ウェストミンスター信仰告白

「第二十五章 教会について」

「一 公同または普遍の教会は、見えない教会であり、そのかしらなるキリストのもとに、過去・現在・未来を通じてひとつに集められた選民の全員から成る。それは、すべてのもののうちに満たしているかたの配偶者、からだ、また満ちみちているものである。」

「二 見える教会は、(律法のもとにあった先の日のように、ひとつの民族に限らないで)福音のものでは、やはり公同または普遍の教会であり、全世界にわたって、真の宗教を告白するすべての者と、その子らとから成る。それは、主イエス・キリストのみ国、神の家族であり、そのそとには救いの通例の可能性はない。」

「三」「キリストは」「この公同に見える教会に」「教役者とみ言葉と諸規定を与えられ、また約束に従って、ご自身の臨在とみたまによって」

「四」「公同教会は、時によってよく見え、時によってあまり見えないことがあった」「その純粋さに相違がある」

「五」「世にある最も純粋な教会も、混入物と誤りとをまぬがれない」「それにも地上には、み旨に従って神を礼拝する教会が、いつでも存在する」

「六」「主イエス・キリストのほかに、教会のかしらはない」

「第二十六章 聖徒の交わりについて」

・現代信仰問答

「教会について」

「問 教会とは何ですか。 答1 教会は、この世からえらび分たれて、キリストのみ

ことばと聖礼典の下に立つ交わりです。」「2 教会は、目に見えるキリストのからだです。」「3 教会は、キリストのうちにあり、キリストによって受け入れられ・あがなわれた、新しい人間の集団です。」

<エフェソの信徒への手紙>

1:22 神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。23 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。14 実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、15 規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、16 十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。17 キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。18 それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。19 従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、20 使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、21 キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。22 キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

4:3 平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。5 主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、6 すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのもののおられる。7 しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。8 そこで、/「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、/人々に賜物を分け与えられた」と言われています。9 「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。10 この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。14 こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、15 むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。16 キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

<コロサイの信徒への手紙>

2:19 頭であるキリストにしっかりと付いていないのです。この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです。

< I コリントの信徒への手紙 >

12:4 賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。5 務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。6 働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。7 一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。8 ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、9 ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。11 これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。12:12 体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数も多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。13 つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。14 体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。15 足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。16 耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。17 もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。18 そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。19 すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。20 だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。25 それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。28 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。29 皆が使徒であろうか。皆が預言者であろうか。皆が教師であろうか。皆が奇跡を行う者であろうか。30 皆が病気をいやす賜物を持っているだろうか。皆が異言を語るだろうか。皆がそれを解釈するだろうか。31 あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。

- ・キリストを頭とした生きた体（有機体）・全体と部分 役割の多様性と統一性
- ・霊的一致
- ・歴史を貫いて全人類的な規模で存在する「共同の教会」と、個々の具体的な諸教会（各個教会）とのつながり。見える教会・見えざる教会。

・教会の「聖性」とは？ 教会における交わりを脅かす病理

(3) 問題としての教会

4 ディートリッヒ・ボンヘッファー(1906-45)

1928 牧師補

30 ユニオン神学校留学

31 ベルリン大学講師

33 ロンドンのドイツ人教会牧師

35 告白教会の牧師研修所の所長

43 逮捕

45年4月 フォロッセンビュルク強制収容所で処刑

5 『共に生きる生活』

(1938年執筆、告白教会の牧師研修所での若き牧師研修生と共同生活)

「共同の研究という形」「教会に与えられた課題」

6 「他者と共なる日」と「孤独なる日」

「ほかのキリスト者が、肉体をもって共にいるということが、信仰者にとっては、つきることのない喜びと励ましの源である」(6)

「キリスト者の交わりは、イエス・キリストを通しての、またイエス・キリストにある交わりである」(8)

「キリスト者の兄弟関係は、理想ではなく、神的現実である」、「霊的な現実であって心理的な現実ではない」(14)

「幻想」と「幻滅」(「幻想は、遅かれ早かれ打ち砕かれてしまうに違いない」)

「幻想は人を高慢にし、要求がましくする」(16)、「われわれに与えられているもので十分ではないだろうか」(17)

「キリスト者の交わりは、キリスト者の聖化と同じく、神の賜物であって、われわれが要求しうることではない」、「神の教会を非難する者にならないように注意しなさい」(19)

「人間的な愛」「人間的な隣人愛」「暗い愛であるエロース」「自分自身のために他者を愛し、霊的な愛は、キリストのために他者を愛する」(23)、「人間的な愛は、他者とはどのような者であり、またどのような者になるかという、他者についての自分勝手なイメージを造る。人間的な愛は、他者の生命を、自分の手の中に握る」(25)

「多くの人、ひとりであることを恐れて、交わりを求める。彼らは、もはやひとりであることに耐えられなくて、その焦燥感が彼らの人々の中へと駆り立てる」、「自分自身から逃避して交わりにはいつて来る者は、そこをおしゃべりと気ばらしの場所として誤って用いるのであり」(70)

「ひとりであることのできない者は、交わり[にはいること]を用心しなさい。彼は、自

分自身と交わりとを、ただ傷つけるだけである」、「しかし、その逆の命題も真である」、「交わりの中にいない者は、ひとりであることを用心しなさい」、「あなたは教会の中へ召されたのである」(71)、「われわれは、ただ交わりの中にいる時にのみひとりであることができ、ただひとりであるもののみが交わりの中で生きることができる」、「ただ交わりの中においてのみ、われわれは、まさしくひとりであることを学ぶのであり、またただひとりであることにおいてのみ、まさしく交わりの中にあることを学ぶのである」(72)

「自己を義とすることと他人を裁くこととは、互いに関連している」(88)

「極めて小さな、外面的な援助を実行することによって生じる時間的な損失を心配するひとは、多くの場合、自分の仕事をあまりにも重大に考えているのである。われわれは、神によって[われわれの仕事を]中断させられる用意がなければならない」(97)

7. 「14:20 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。21 食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。23 群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。」(マタイによる福音書)

8. 霊における一致とは何か

愛と知恵

「信仰に基づく知恵」とその訓練の必要性

9. <ヘブライ人への手紙>

5:11 このことについては、話すことがたくさんあるのですが、あなたがたの耳が鈍くなっているので、容易に説明できません。12 実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。13 乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。6:1 -2 だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。

<文献>

日本基督改革派教会 / 信条翻訳委員会訳 『ウェストミンスター信仰告白』新教新書
ボンヘッファー 『現代信仰問答』新教新書
『共に生きる生活』新教出版社
『抵抗と信従』(ボンヘッファー著作集 5) 新教出版社